

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	このえ南馬込保育園
施設所在地	大田区南馬込5-18-18
法人名	株式会社なないろ

1. 活動のテーマ

<テーマ>

【声/音/動き】リズムを感じ表現

<テーマの設定理由>

本園のような「都市型保育園」の課題として、施設構造上の制約や、毎年厳しくなる異常気象による戸外活動の制限などがあり、体験に必要な環境が制限されている実態がある。その現状の中で、室内の適切な環境下でも子どもたちへ豊かな体験の場を設定することが必要であると感じていた。

日頃の朝の会、帰りの会、楽器遊びなどを通して、子どもたちが音やリズムに触れ、自主的に活動する姿が見られたことから、太鼓やバチなどを使った「リトミック」を取り入れることとした。子どもたちが自ら挑戦する意欲や探究心を育むことをねらいとし、本テーマを設定した。

2. 活動スケジュール

- ① 4月～：すくわくプログラムに参加するための職員の視聴勉強会を実施。
- ② 7月～：本部保育推進責任者と共に、活動内容とねらいについての視点合わせ（勉強会）および園担当者との計画立案を実施。
- ③ 8月～：リトミック研修にて、理論と実践を学ぶ。
- ④ 12月～：5歳児、4歳児を対象にリトミックを実施。
- ⑤ 12月～：リトミックで培ったリズムの習得をもとに、楽器や歌などで表現する楽しさや、友達との協調性を大切にしながら探究活動を進めていく。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

【リトミックの実施】 太鼓、バチ、リングなどを準備し、クラスごとで子どもの興味や発達に合わせてリトミックを実施できる環境を整えた。

【リトミック動画の作成】 保育者の理解を深めるためのガイドブックとしての役割を持たせるとともに、子どもたちの興味・関心をさらに引き出すための「視覚的・聴覚的実践映像」を作成した。特に、外部専門講師による表現や動きを取り入れながら映像を構成したことで、身体表現のポイントやリズムの捉え方を可視化し、日常の保育に即座に活かせる実践的な教材として準備した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

拍子を取りながらリズムを打つ活動を行った。バチを使い、「強・弱」を意識して手の動かし方も工夫しながら実践した。保育者の太鼓に合わせて拍子を打ち、リズムを合わせる楽しさを味わえるよう構成した。

グループでリズムを打つ活動では、2人組から徐々に人数を増やしていき、最後はクラス全員で手を繋いでリズムを合わせる表現に挑戦した。「どこを工夫すると上手くいくか」を子どもたち自身で考え、主体的に活動を進めていけるよう支援した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

【5歳児の姿】

初めは自信がなさそうな様子で、保育者や他の子を真似て取り組む姿が見られた。しかし、繰り返し行ううちに自信をつけ、楽しそうにジャンプしながら拍子を叩く姿へと変化していった。グループ活動では、「一緒にやろうよ」と声を掛け合い、リングを使った4人組の活動時には「手をつないでやろう」と、子ども同士で自発的にアイデアを出し合う姿が見られた。

【4歳児の姿】

左右の手の使い方がすぐに理解できる子と、難しく感じて保育者の動きをじっと見つめる子に分かれた。そこで保育者が「お箸を持つ方の手が右だよ」「その右手で『強』だよ」と具体的に言葉掛けをすることで、子どもたちは安心し、自信を持って取り組むことができた。グループ活動では、目の前の友達と動きを合わせようとしたり、「反対だよ」と言葉で伝え合ったりする協同的な姿が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

初めは「強・弱」の拍を取ることが難しい様子の子どもたちであったが、繰り返し実践することで徐々に興味を持ち、自ら進んで「やりたい」と主張する姿が見られるようになった。このことから、活動を継続することの大切さと、保育者の適切な働きかけによって子どもたちの姿が明確に変わるという成果を実感した。

子どもたちの探究心を今後も広げていくためには、適した環境を整え、子どもたちの反応を見ながら工夫して遊びを展開していくことが、健やかな育ちに繋がると深く感じた。